

身近な自然に目を向けてみましょう。

今回、カエル、トンボ、貝の調査を通じて、里山の現状を知ることができました。管理されなくなった林や田んぼはヤブのようになり、そこに生育する植物の種類は少なくなっていきます。その影響もあり、調査をした生き物で確認できた数が少なく、いなくなってしまう種類が出てくることもあるでしょう。今の環境を維持するだけでなく、今後は良好な環境に変えていく必要があります。

人間を含め、生き物は一種類だけで生きていくことはできません。例えば、生育する植物の種類が少なくなると、カエルが食べる昆虫も少なくなります。カエルが少なくなると、カエルを餌とするヘビなどもいなくなってしまうます。

土浦市内に残されている身近な自然を守り、いろいろな生き物が住める、より良い環境にしていきましょう。良い環境にするために、生き物の生息環境を保全したり、荒れた環境を修復したり、ビオトープとして整備を進めていきます。

一緒にはじめてみましょう。

学校や公民館など、地域単位でこのような林や田んぼ・ため池などの里山の生き物調査をやってみませんか？ 調査に参加して、地域の自然を知ることからはじめてみましょう。

ビオトープづくりは、ちょっとした工夫で学校や家庭でもできます。トンボのために水槽を置いたり、虫や鳥のための植物を植えたりすることでいろいろな生き物がやってくるようになります。



調査風景



ビオトープ
とは

ビオトープとはドイツ語の Bio(生物)と Top(場所)の造語です。つまり「生物の生息空間」のことをいいます。

私たちの身近にある草地や畑、ため池は昆虫や動物の生息空間である小さなビオトープですし、霞ヶ浦も大きなビオトープといえます。



レクチャー
風景